丸山湿原群保全の会会報

（第 115 号）

発行日：平成 29 年２月 14 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

立春も過ぎ、三寒四温の時期となりました。とはいえ今シーズン最強の寒波が日本列島を襲っています。今年は、気温はそれほど下がりませんが雪の日が多いような気がします。正しい冬なのか、異常な冬なのか、見極められないこの頃です。

本来春の気圧配置である南岸低気圧が降らせる里雪の形が早い時期から続いているのでは？やはり異常気象？

海水温の上昇が全ての循環に影響しているに違いありません。先日の新聞記事に、サンゴの北進スピードが、なんと年 14 ㎞とありました。一方では白化現象が･･･どうなるのでしょうね。何度も言いますがトランプさん、パリ協定離脱の大統領令だけはご勘弁を！不都合な真実は真実です。

（今住　２月 12 日作成）

活動報告

★1 月 29 日（日）定期活動　第２湿原　再萌芽木処理

第２湿原の再萌芽木処理作業を実施しました。参加者は 19 名。

（Ｂｅｆｏｒｅ）

（Ａｆｔｅｒ）

今回は里山大学ＯＢで組織されている「北摂里山を愛する会」の皆さん、一般参加、県の担当者との協働作業となりました。

第２湿原は原則非公開。高台に作られた視点場からだけの観察エリアです。一昨年、湿原周辺を松だけ残して皆伐。その後ソヨゴなど常緑広葉樹が再萌芽し、視界が悪くなってきていました。

刈り取り作業を実施しますしたが、実際どの程度できるのか疑問でした。しかし里山管理作業に慣れた方が多く、予想以上の成果がありました。

皆さん手刈りで、ササも含めテキパキと作業される姿には感動めいたものまで感じました。しかもサボらない。手を抜かない！素晴らしい！としか言いようがありません。

（手刈りの作業風景）

（手刈りの作業風景）

（昼食タイム）

協力いただいた「愛する会」の方にお話を聞くと、それぞれ自分の活動エリアをお持ちでご活躍とのこと。保全技術の習得、知識獲得のために「里山大学」へ入られたようです。

作業の成果以上にいろいろな方と交流できた意義は大きく、今後の刺激となりました。県の担当者お二人にも同じように活動していただきました。慣れない鉈や鋸の使用、翌日に疲れが出なかったか心配しております。（多分出てると思いますが･･･特に鉈は。）

協働していただいたみなさん、本当にありがとうございました。

（手刈りの作業風景）

ソヨゴの再生力にびっくり！

ソヨゴの再生力（再萌芽力）は以前からよく知っているつもりでしたが、その生命力には本当に驚かされます。研究論文では、雑木林皆伐後に最も再萌芽の早い植物として、ソヨゴ・ネジキ・リョウブが挙げられるそうです。その中でもソヨゴは元々根が浅く、木が大きくなって傾いた時にでも根が浮いた部分から新芽を出すとか。山から姿を消すことがないようなシステムを持っているようです。今回枝切りをしていてもびっくりするような再萌芽を見つけました。信じられない生命力です。裂けた枝から驚くほどの葉が…。ソヨゴが減らないはずです。

（集合写真）

（ソヨゴの奇妙な再萌芽）

【その他】

活動終了後、駐車場にある倉庫裏で見つけたもの。ショッキングピンクの大型トランクケース。今までごみ回収で集めた物を置いていたのも原因かもしれませんが、廃棄されたもののようです。何が入っているのかヒヤヒヤものです。ひょっとして…警察？持ち上げてみるとどうやらからのようですが、カギが壊されていてしかも開きません。盗難品を中身だけ抜き取り廃棄？想像ですが。困ったものです。

反省として、回収したごみはできるだけ早く処分しなければいけないと思います。しかし、前回の木への落書きといい、悪質な行動が目立ちます。今後もしっかりと見守り、ごみ回収していきます。天然記念物の番人として。

（捨てられたトランク）

活動報告

★2 月 4 日（土）定期活動（事情により日を変更）

6名で活動（一般参加2名を含む）。定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去

目的	市内	市外
丸山	9	24
ハイキング	4	0
その他	0	0

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度
入口	10：05	9.5℃	
視点場	10：40	10℃	
第３湿原	10：30	【5.3℃】	33μS/cm
第１湿原	10：40	【4.5℃】	24μS/cm
第２湿原	11：10	【6.5℃】	29μS/cm

来場者数　　計 37 人
（竹筒ポスト人数）

今回は、画像がありません。

第 5 湿原を久しぶりに訪れました。この湿原もあまりなじみのない方が多いと思います。乾燥化がひどく（もともとがどんな状況かも不明ですが）、湿原としては遷移の最終段階を迎えています。再生を一時試みましたが、力及ばず現在に至っています。ハッチョウトンボは今でもみられるようです。余力があれば今後も再生を試みたいと思います。

次回活動日２月 26 日（日）３月 11 日（土）26 日（日）。参加よろしくお願いします。

【丸山セミナー　両生類卵塊数調査】

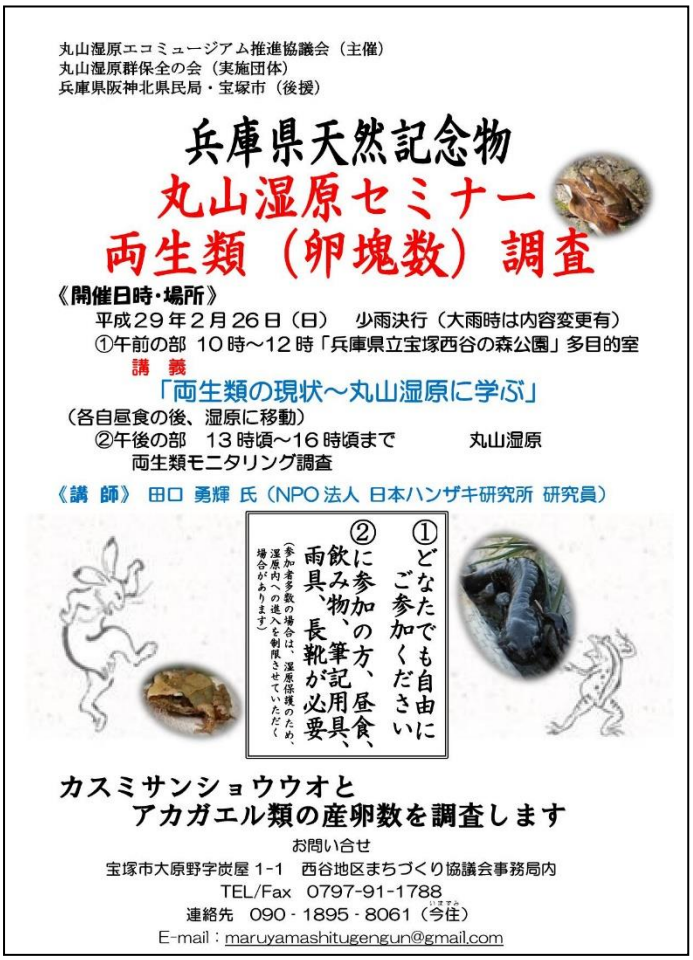
２月 26 日（日）　定期活動を兼ねています。お間違えの無いようご注意ください。

①　１0:00～12：00　「西谷の森公園」　多目的室（両生類の現状～丸山湿原群に学ぶ）

②　13:00 頃～　16：00 頃　丸山湿原で両生類の卵（卵塊）を調査します

１０年間連続で行ってきたセミナーです。講師はハンザキ研究所　田口勇輝 氏（10 年連続講師）

午前だけ、午後だけの参加でも結構です。ふるってご参加ください。ただし、午後の部は人数多数の場合、湿原内立ち入りを制限いたします。ご了承ください。



丸山湿原エコミュージアム推進協議会（主催）
丸山湿原群保全の会（実施団体）
兵庫県阪神北県民局・宝塚市（後援）

兵庫県天然記念物
丸山湿原セミナー
両生類（卵塊数）調査

《開催日時・場所》
平成29年２月26日（日）　少雨決行（大雨時は内容変更有）
①午前の部　10時～12時「兵庫県立宝塚西谷の森公園」多目的室
講　義
「両生類の現状～丸山湿原に学ぶ」
（各自昼食の後、湿原に移動）
②午後の部　13時頃～16時頃まで　　丸山湿原
両生類モニタリング調査

《講　師》 田口 勇輝 氏（NPO法人 日本ハンザキ研究所 研究員）

①どなたでも自由にご参加ください
②に参加の方、昼食、飲み物、筆記用具、雨具、長靴が必要
（参加者多数の場合は、湿原保護のため、湿原内への進入を制限させていただく場合があります）

カスミサンショウウオと
アカガエル類の産卵数を調査します

お問い合せ
宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax　0797-91-1788
連絡先　090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

（カスミサンショウウオ卵塊）

（ニホンアカガエル卵塊）